

第9回今後の教育課程、学習指導及び学習評価等の在り方に関する有識者検討会 発表（15分間）

愛媛大学附属高等学校 事例報告

学校長 吉村 直道

（教育学部，数学教育学，教授）

副校長 八木 昌生

（情報科，教諭）

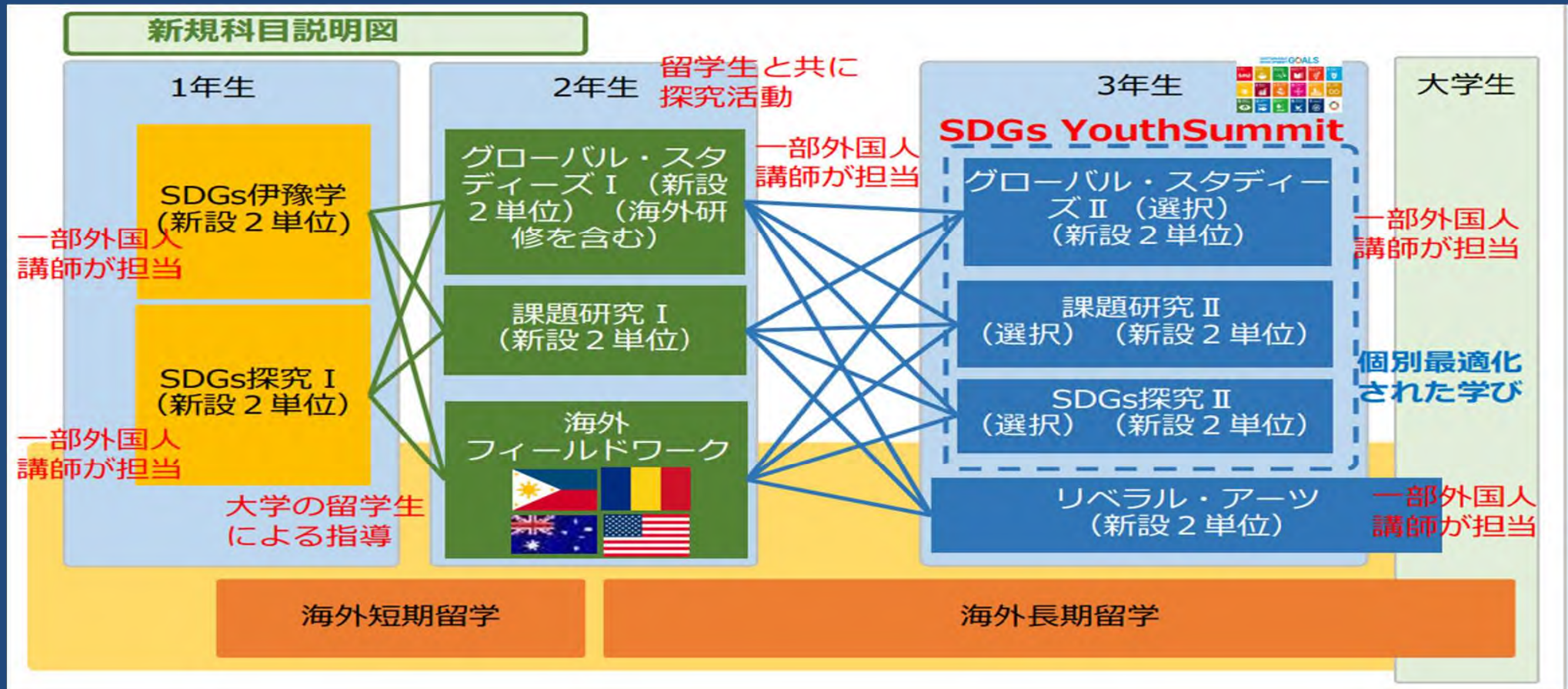


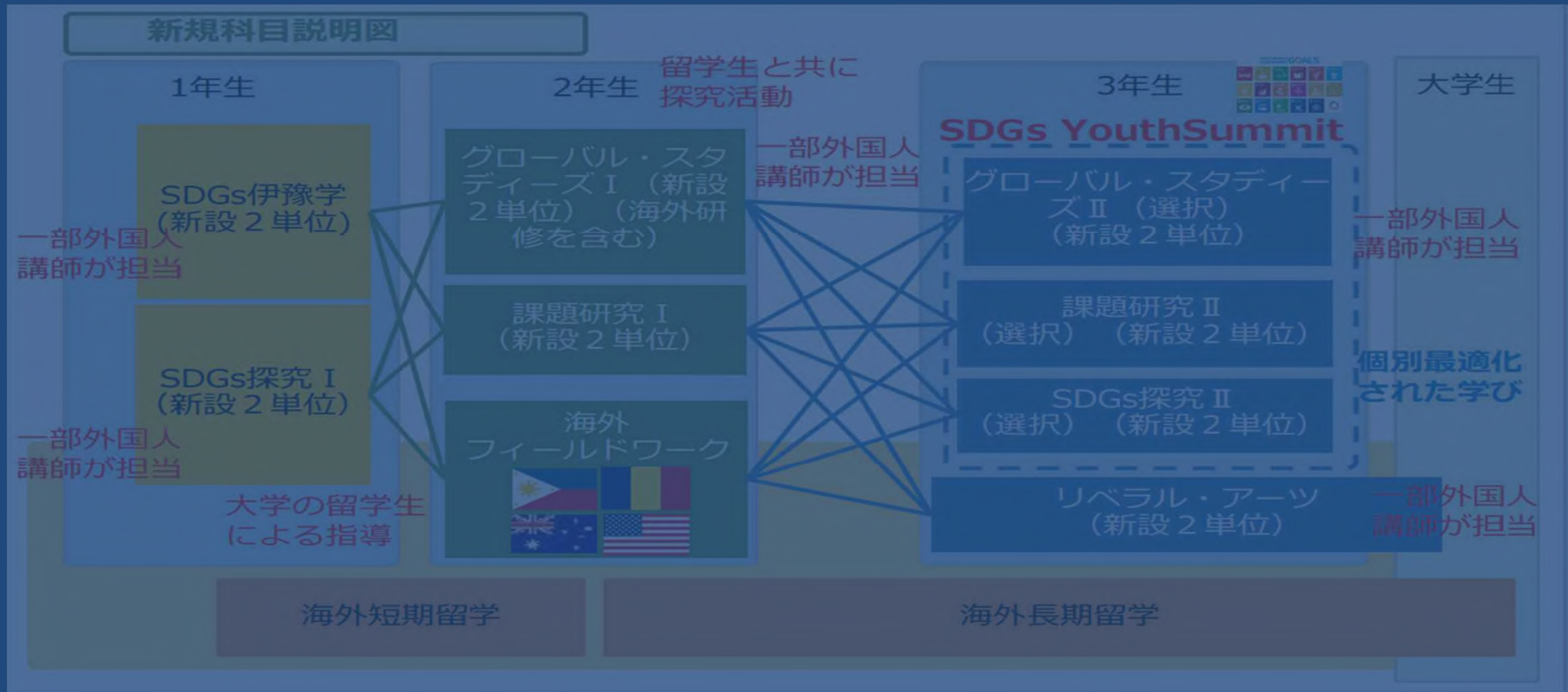
学校基礎情報

- 小規模校.....1学年定員120名 × 3学年
- 総合学科.....4系列
 - 生命科学系列, 物質科学系列, 教養文化系列, 社会文化系列

【研究実績】

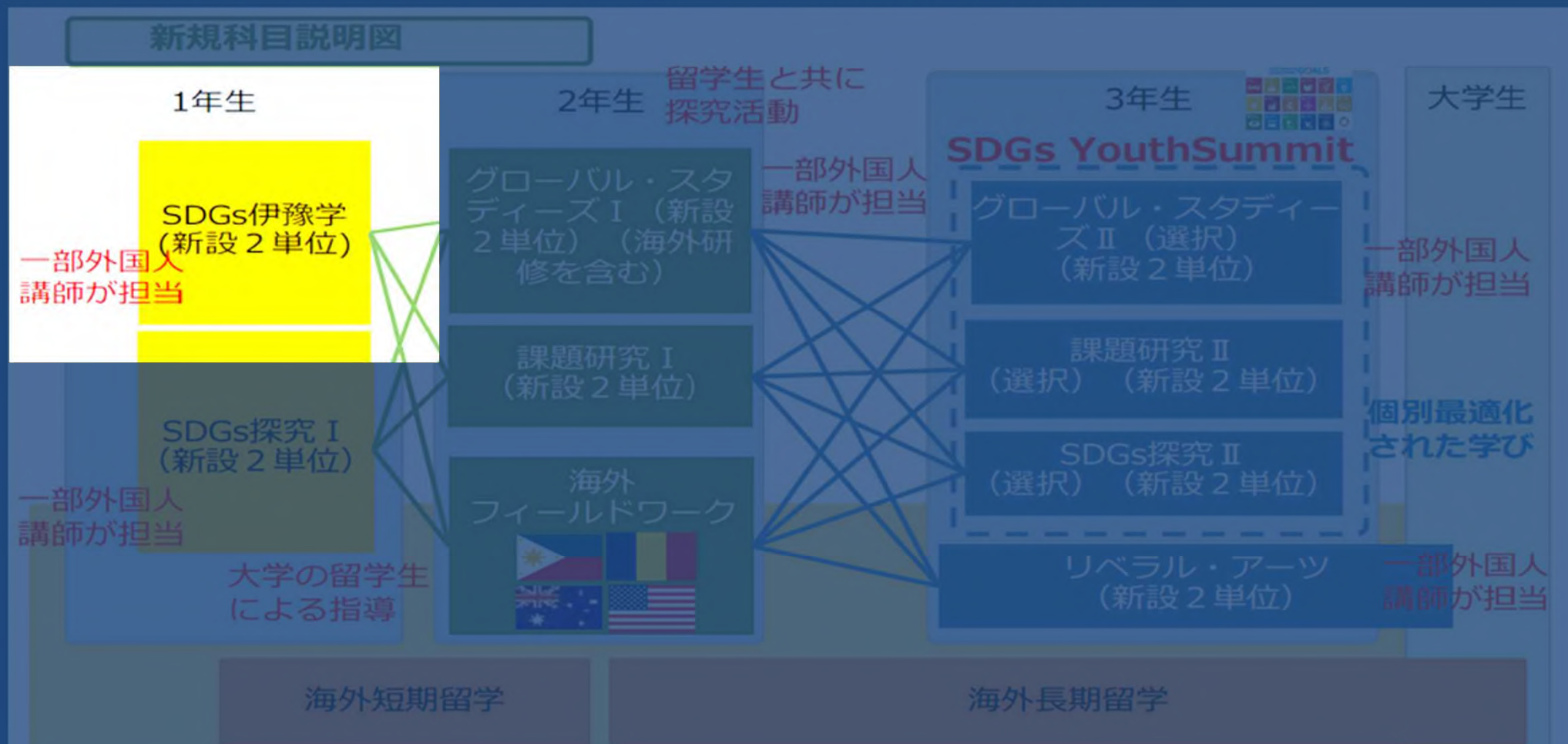
- 平成27～令和元年度(5年間) SGH
- 令和2～4年度(3年間) WWLコンソーシアム構築支援事業
- 令和3～6年度(4年間) 研究開発学校
 - 「個の特異な才能を見出すテーラーメイド型の教育内容, 指導内容・評価方法の研究」





WWL事業(2020年~2022年度)

「高大連携の国際化を通じたSDGsグローバル人材の育成」



SDGs伊豫学(現, 産業社会と人間)

No.	期日	講師名	所属	テーマ	分野												
					人文	社会	数物系	化学	工学	生物学	国際	農学	医学	情報	環境	生活科学	
1	5/17	今泉志奈子	法文学部	ことばの不思議と楽しみ	1												
2	5/26	薬師神芳洋	医学部	がんの治療と遺伝子									1				
3	6/16	張 貴民	教育学部	地理学とSDGs		1										1	
4	6/21	清水 徹	宇宙進化研究センター	宇宙天気予報			1									1	
5	6/23	中川勝吾	社会連携推進機構	知的財産		1											
6	7/7	都築伸二	工学部	インターネット											1		
7	9/27	中川祐治	データサイエンスセンター	キャンパスIT											1		
8	9/29	村田晋也	教育・学生支援機構教育企画室	キャリア学習Ⅰ		1											
9	10/4	胡 柏	農学部	新しい農と食の世界								1					1
10	10/13	村田晋也	教育・学生支援機構教育企画室	キャリア学習Ⅰ		1											
11	10/18	川岡 勉	教育学部	天下統一の時代の伊予		1											
12	10/20	村田晋也	教育・学生支援機構教育企画室	キャリア学習Ⅰ		1											
13	11/1	ヒディング・アトリア	国際教育支援センター	世界のSDGs							1						1
14	11/9	澤崎達也	プロテオサイエンスセンター	タンパク質と薬						1			1				
15	11/15	小助川元太	教育学部	「予章記」を読もう	1												
16	12/1	山本智規	社会共創学部	農林水産業の未来								1					
17	12/6	西嶋真理子	医学部	インフルエンザ									1				
18	12/13	中川未来	法文学部	旅行の 대중化と道後温泉		1											
19	12/15	竹内よし子	えひめグローバルネットワーク	企業講話		1					1						
20	1/17	山内 聡	農学部	有機化合物と農薬				1				1					
21	1/24	廣岡昌史	医学部	愛媛の医療と福祉									1				1
22	1/26	小田敬美	法文学部	契約とブラックバイト		1											
23	1/31	八丈野孝	農学部	農学部講話								1					
24	2/14	平岡耕一	工学部	愛媛の科学技術と情報					1						1		
25	2/16	山口信夫	社会共創学部	多様な生き方への想像力を持つ ことこそSDGsの第一歩		1											1
26	2/21	栗田 航	井関農機株式会社	企業講話									1				1
計					2	10	1	1	1	1	2	5	4	3	5	2	

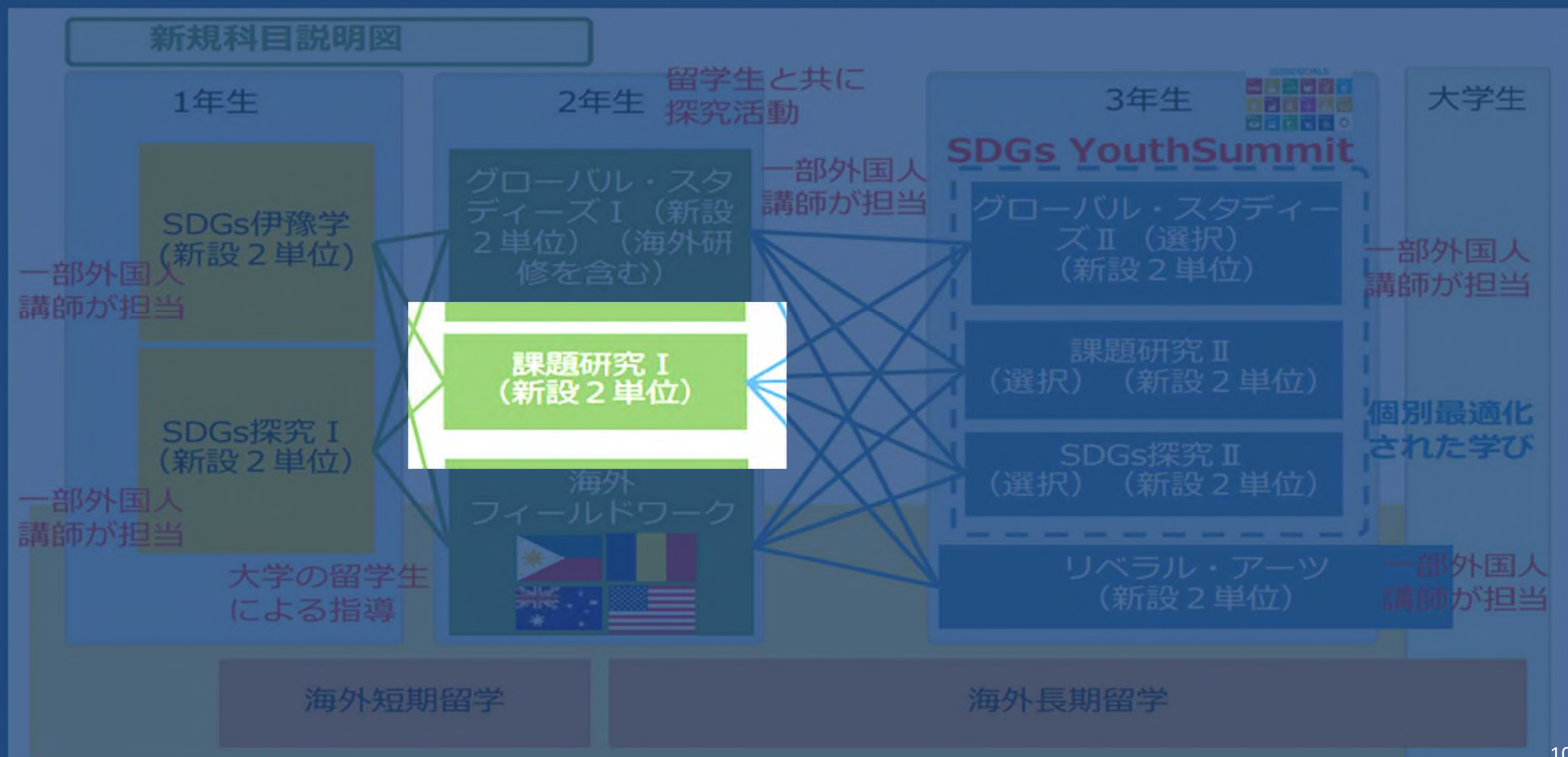
SDGs伊豫学(現, 産業社会と人間)

No.	期日	講師名	所属	テーマ	分野													
					人文	社会	数物系	化学	工学	生物学	国際	農学	医学	情報	環境	生活科学		
1	5/17	今泉志奈子	法文学部	ことばの不思議と楽しみ	1													
2	5/26	薬師神芳洋	医学部	がんの治療と遺伝子										1				
3	6/16	張 貴民	教育学部	地理学とSDGs		1											1	
4	6/21	清水 徹	宇宙進化研究センター	宇宙天気予報			1										1	
5	6/23	中川勝吾	社会連携推進機構	知的財産		1												
6	7/7	都築伸二	工学部	インターネット													1	
7	9/27	中川祐治	データサイエンスセンター	キャンパスIT													1	
8	9/29	村田晋也	教育・学生支援機構教育企画室	キャリア学習Ⅰ		1												
9	10/4	胡 柏	農学部	新しい農と食の世界									1					1
10	10/13	村田晋也	教育・学生支援機構教育企画室	キャリア学習Ⅰ		1												
11	10/18	川岡 勉	教育学部	天下統一の時代の伊予		1												
12	10/20	村田晋也	教育・学生支援機構教育企画室	キャリア学習Ⅰ		1												
13	11/1	ヒディング・アトリア	国際教育支援センター	世界のSDGs														
14	11/9	澤崎達也	プロテオサイエンスセンター	タンパク質と薬														
15	11/15	小助川元太	教育学部	「予章記」を読もう	1													
16	12/1	山本智規	社会共創学部	農林水産業の未来														
17	12/6	西嶋真理子	医学部	インフルエンザ														
18	12/13	中川未来	法文学部	旅行の 대중化と道後温泉		1												
19	12/15	竹内よし子	えひめグローバルネットワーク	企業講話		1												
20	1/17	山内 聡	農学部	有機化合物と農薬														
21	1/24	廣岡昌史	医学部	愛媛の医療と福祉														1
22	1/26	小田敬美	法文学部	契約とブラックバイト		1												
23	1/31	八丈野孝	農学部	農学部講話														
24	2/14	平岡耕一	工学部	愛媛の科学技術と情報					1								1	
25	2/16	山口信夫	社会共創学部	多様な生き方への想像力を持つ ことこそSDGsの第一歩		1												1
26	2/21	栗田 航	井関農機株式会社	企業講話									1				1	
計					2	10	1	1	1	1	2	5	4	3	5		2	

専門家の先生方から
多様な関心の
種をまいていただく!

WWL事業(2020年~2022年度)

「高大連携の国際化を通じたSDGsグローバル人材の育成」



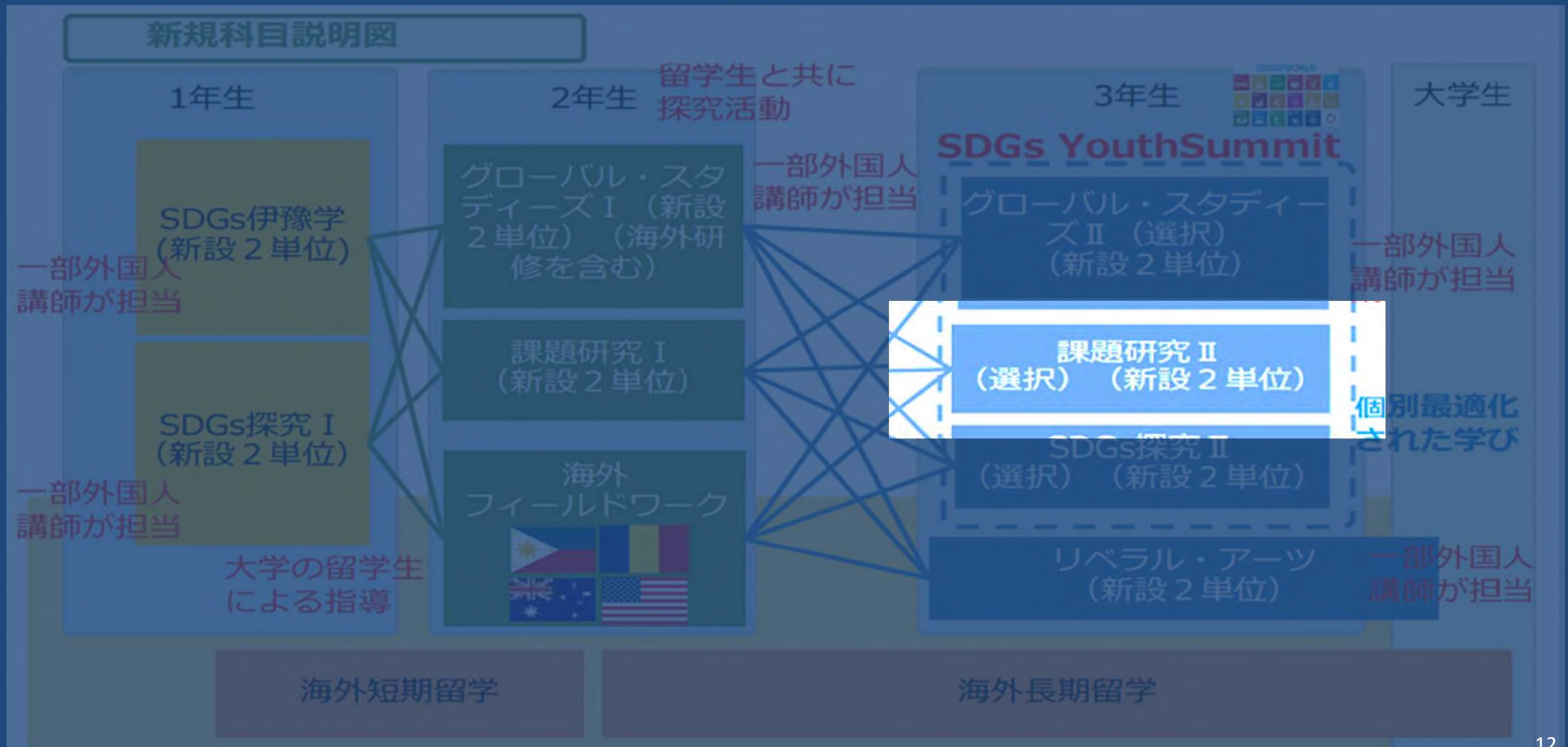
課題研究 I (グループ研究)

	協力学部	テーマ件数 (グループ数)	人数	SDG1	SDG2	SDG3	SDG4	SDG5	SDG6	SDG7	SDG8	SDG9	SDG10	SDG11	SDG12	SDG13	SDG14	SDG15	SDG16	SDG17	計
				貧困	飢餓	健康 福祉	教育	ジェン ダー 平等	水と トイレ	エネ ル ギー	働き がいと 経済	産業と 技術 革新	不平等	まち づくり	つくる つかう 責任	気候 変動	海の 豊かさ	陸の 豊かさ	平和と 公正	パート ナー シップ	
1	法文学部	7	20		1	1	3						1		1				4	3	14
2	教育学部	12	23				8					3	2	1			1		2		17
3	社会共創学部	7	22	1		1		1			1	2	1	3				1			11
4	理科部	4	5		1				2			1		1	3				2		10
5	医学部	6	19	1		6							1								8
6	工学部	7	14							2	1	5		4	2		1	1			16
7	農学部	8	16		3	1			1		2	3		2			1	1			14
		51	119	2	5	9	11	1	3	2	4	14	5	11	6	0	3	5	6	3	90

大学の先生方から、ハード面・ソフト面に関わらずさまざまなサポートやご指導ををいただきながら、グループで自分たちの研究に取り組む。

WWL事業(2020年~2022年度)

「高大連携の国際化を通じたSDGsグローバル人材の育成」



課題研究Ⅱ

	協力学部	テーマ件数 (グループ数)	人数	SDG1	SDG2	SDG3	SDG4	SDG5	SDG6	SDG7	SDG8	SDG9	SDG10	SDG11	SDG12	SDG13	SDG14	SDG15	SDG16	SDG17	計
				貧困	飢餓	健康 福祉	教育	ジェ ン ダー	水と トイ レ	エネ ル ギー	働き がい と	産業 と技 術	不平 等	まち づく り	つく るつ かう	気候 変動	海の 豊か さ	陸の 豊か さ	平和 と公 正	パー ト ナー	
1	法文学部	4	4				2				1			1					1		5
2	教育学部	5	5				4											1			5
3	社会共創学部	8	8		1	2	2				3	1	1	7		2	1	1			21
4	理科部	4	4		1		4		1						2		1	1			10
5	医学部	8	8			8	2				1		3	4							18
6	工学部	5	11				3					4		1	1						9
7	農学部	6	5		4	1						1						3			9
		40	45	0	6	11	17	0	1	0	5	6	4	13	3	0	2	6	1	0	75

課題研究Ⅱ

	協力学部	テーマ件数 (グループ数)	人数	SDG1	SDG2	SDG3	SDG4	SDG5	SDG6	SDG7	SDG8	SDG9	SDG10	SDG11	SDG12	SDG13	SDG14	SDG15	SDG16	SDG17	計
				貧困	飢餓	健康 福祉	教育	ジェ ン ダー	水と トイ レ	エネ ル ギー	働き がい と	産業 と技 術	不平 等	まち づく り	つく るつ かう	気候 変動	海の 豊か さ	陸の 豊か さ	平和 と公 正	パー ト ナー	
1	法文学部	4	4				2				1			1					1		5
2	教育学部	5	5				4												1		5
3	社会共創学部	8	8		1	2	2				3	1	1	7		2	1	1			21
4	理科部	4	4																		0
5	医学部	8	8																		8
6	工学部	5	11																		9
7	農学部	6	5																		9
		40	45	0																	5

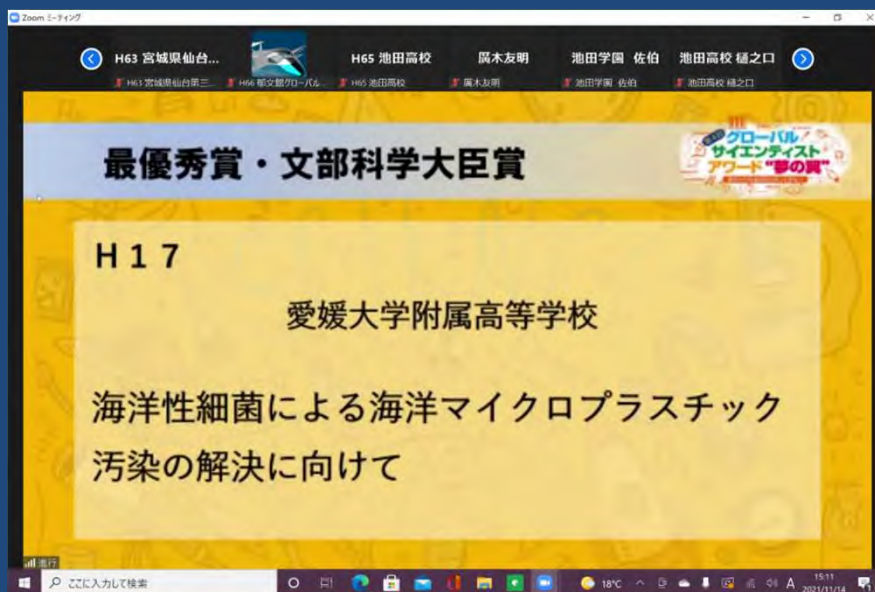
今年度、学会発表の実績は2件

①生物系三学会中国四国地区合同大会(徳島大会),
高校生発表優秀賞, 23年5月14日

②2023年度応用物理・物理系学会 中国四国支部 合同
学術講演会発表, 島根大学, 23年7月29日

①海洋プラスチック問題解決に向けて

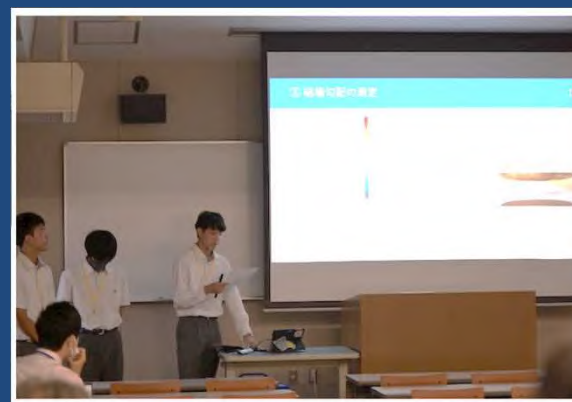
「海洋性細菌による海洋マイクロプラスチック問題の解決を目指して」



- ・「超異分野学会 香川フォーラム」「日本生物教育学会」等、各学会にて発表
- ・「国際生物多様性の日2022シンポジウム」にて発表
- ・「第4回グローバルサイエンティストアワード“夢の翼”」 最優秀・文部科学大臣賞, 他多数受賞

②2023年度応用物理・物理系学会 中国四国支部 合同学術講演会発表

「1テスラ以下でのモーゼ効果に関する研究」



- ・ 普段から実験授業が中心
- ・ 他校との交流事業
- ・ 指摘部分を課題研究Ⅱで修正、活用

③EGFキャンパスアワード2022 最優秀賞

「電車と双海に活気を！サイクリングと駅弁で町おこし」



- ・地域おこし協力隊との連携
- ・一人で実地調査
- ・愛媛大学社会共創学部進学決定

④トビタテ留学JAPAN モザンビーク研修2名



- ・校内モザンビーク班活動3年目
- ・トビタテ留学JAPAN✕飛び入り留学JAPAN
- ・帰国後は母校や小中学生に向けて研修報告

⑤ スポGOMI活動

「海と日本プロジェクト スポGOMI甲子園全国大会 優勝」



- ・一昨年度全国優勝、昨年度、全国準優勝
- ・学校参加3年目
- ・TBSテレビ「ひるおび」にて特集報道
- ・生徒会清掃活動に波及

⑥フードロス問題解決に向けて

実施期間: 1月12日~1月14日 (昼食時まで)

回収場所: 2棟1階 農産物無人販売所横



回収できるもの

- ・賞味期限が一月以上あるもの
- ・常温保存が可能なもの
- ・簡単な調理で食べやすいもの

(例) カップ麺、うどん、パスタ、レトルト食品、飲み物等

集まった食品は、最終的に市内の子ども食堂やひとり親世帯等に届けられます。沢山のご協力をお願いいたします。



- ・校内フードドライブ活動3年目
- ・地元の子ども食堂や大学との連携
- ・他校国際会議でも研究発表

Prudential
EMERGING VISIONARIES

ボランティア・スピリット・アワード

~未来を描くチカラ~

- ・コミュニティ賞を受賞

⑦起業活動

Special E

高校生社長奮闘記 八幡浜「えもんファーム」の挑戦



- ・2020年1月起業(高校在学中)
- ・富士柿や柑橘の加工品の企画販売
- ・愛媛大学農学部に進学、継続経営

⑧G空間EXPO 2023「Geoアクティビティコンテスト」

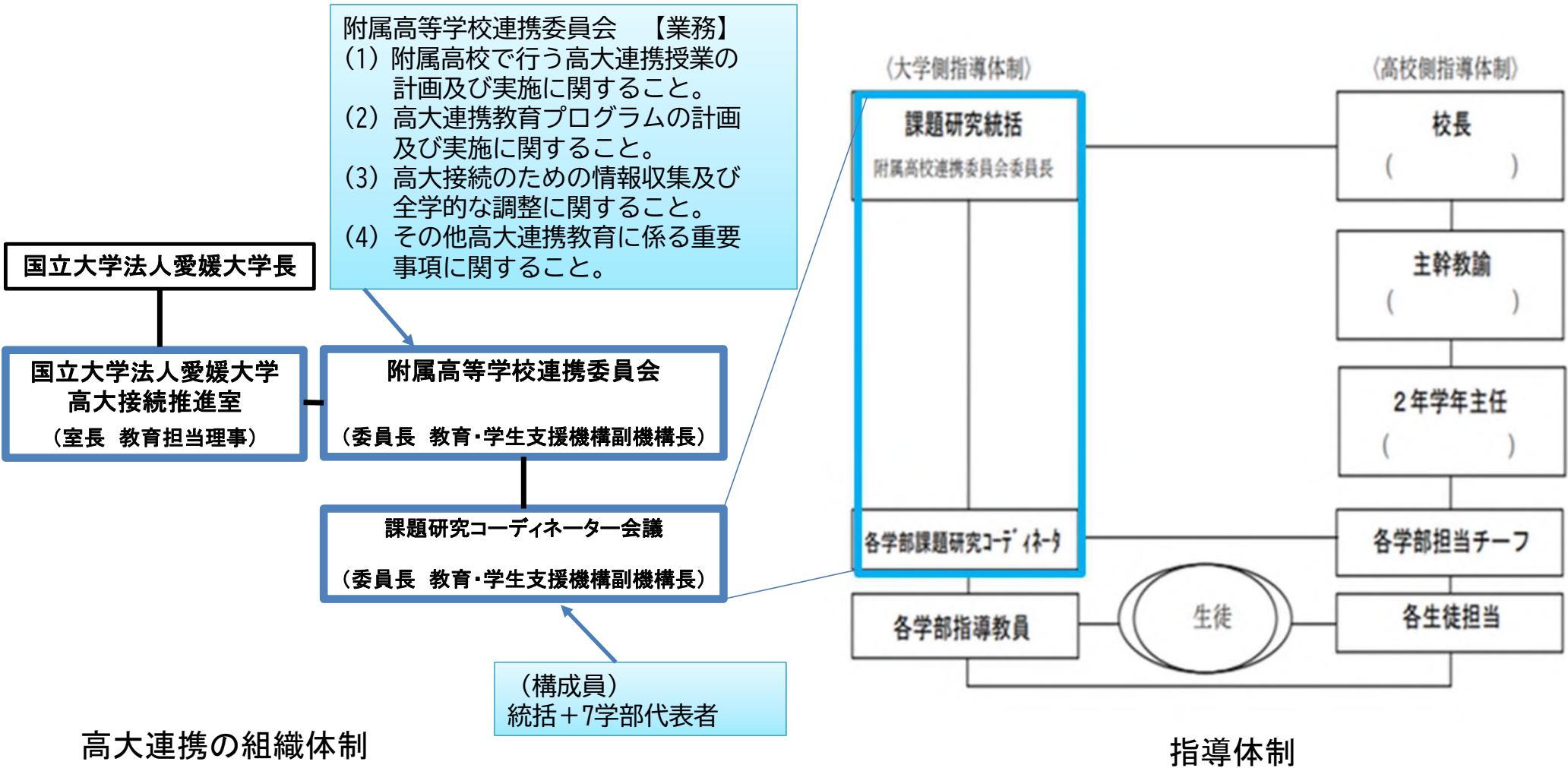
国土地理院データ活用賞

「急斜面柑橘園におけるスマート農業～地理空間情報の利活用～」



- ・スマート農業班として活動
- ・先輩が収集したデータも合算し、データを蓄積
- ・ドローンによるレーザー測量

高大連携の組織体制と指導体制



研究助成や研究発表の機会を，生徒・教員がそれぞれ見つけてきて，それらにチャレンジ！

[事務連絡] 【全】研究助成等募集のご案内 Grants/funding applications and other research support

タイトル：【全職員向け】研究助成等募集のご案内 Grants/funding applications and other research support
=====

令和6年1月25日

教 員 各 位

研究支援部研究支援課

研究助成等募集のご案内

Grants/funding applications and other research support

このことについて，下記のとおり公募の案内がありましたのでお知らせいたします。

■中央省庁や国立研究開発法人等の公募■

○e-Rad（府省共通研究開発管理システム）（注1参照） <https://www.e-rad.go.jp/>

■公益財団法人や民間企業等の公募■

○公益財団法人 武田科学振興財団

・ビジョナリーリサーチ助成 (～2/29 ㄨ)

・生命科学 (～3/6 ㄨ)

・ハイリスク新興感染症・医学・薬学・ライフサイエンス研究助成 (～3/13 ㄨ)

・特定研究助成 (～学内2/27 ㄨ)

<https://www.takeda-sci.or.jp/assist/>

○一般財団法人 放送大学教育振興会

左は、
学内に流れるBBSメール

「学習の個性化」から生じた乗り越えるべき課題

- 光輝けば輝くほど、闇も強くなり、その克服に苦勞する。
 - グループのとき、どんどん進んでいく生徒と同じペースで取り組むことができない生徒がいる。
 - 周りからの注目が集まり過ぎて、多忙になり疲弊することがある。
 - 特別進むグループや生徒が、周りから特別視される。
 - 自分自身のある一面が強調され、他の側面をより弱く感じる。

<進路に関わる評価>

- 多くのケースで、特異な分野での努力だけが評価されるのではなく、標準的で満遍なく発揮される力を有する人材が一般的に評価されやすい。
- 特異な分野ばかりを努力すればよいわけではない。

研究開発学校プロフィールの作成



愛媛大学附属高等学校
EHIME UNIVERSITY SENIOR HIGH SCHOOL



目的：テラーメイド型教育の実現

方法：生徒の「認知」と「こころ」を調査し、個に応じたアプローチを行う。

全校生徒を対象として、Moodle にて毎月 1 回実施する。

氏名	単元A					単元B				
	学校生活	情緒	自己効力感	得点	観点別	学校生活	情緒	自己効力感	得点	観点別
A	3	2	2	63	ABA	2	3	1	57	ABB
B	2	2	3	82	AAA	1	3	2	71	AAB
C	2	1	2	50	BBB	2	2	1	48	BBB
D	2	3	1	59	BBA	1	2	3	66	ABB
E	3	3	2	77	AAB	3	2	2	75	AAA
F	1	1	2	43	BCB	2	1	2	49	BBB

達成目標

- ・ 個に応じた学習環境の構築
- ・ 困り感のある生徒への指導

【 認知 】 × 【 こころ 】

- ・ 個の特異な才能を伸長する取組

こころの調査(2023.10月実施アンケート集計結果一部抜粋)

				選択B	【学校生活】				【学習】				【自己効力感】			【家庭生活】			
				質問内容	授業や部活動、行事、課外活動に対して前向きに取り組むことができています。	教育活動において級友と協働して物事に取り組むことができています。	行き詰まったときや悩みがあると、解決に向けて行動したり、相談先の当てがある等どうすればよいか見通しが立っていたりする。	担任との懇談を希望している。	学習内容(単元)が楽しく、やる気を維持できています。	他者の意見を聞いたり自らの意見を発表したりするなど、意欲的に授業に臨むことができています。	先生の解説等が興味深く、楽しく学習できている。	教科において個別指導を希望している。	日々の課題にしっかりと取り組むことができています。	自ら単元の課題を見つけ自身で解決に向けて取り組むことができています。	学校での学習や活動が、自分の自信に繋がっている。	規則正しい生活を送れている。	スマートフォンの使い方や時間について把握できている。	家庭において学習に集中できる環境が整っている。	家族は、自分の考えをほぼ理解してくれている。
学年	クラス	出席番号	氏名	カテゴリ	学校活動	協働	自己解決	緊急性	学習内容	授業	授業者	個別学習	受動的	能動的	自信	規則正しい生活	スマホ	集中環境	理解応援
2	1			古典演習Ⅰ	4	4	4	希望しない	3	3	3	0	3	3	3	3	4	4	4
2	1			古典演習Ⅰ	4	4	4	希望しない	4	2	3	国語、数学、英語	1	3	4	4	3	4	4
2	1			古典演習Ⅰ	4	4	3	希望する	3	4	3	0	3	3	4	3	3	3	3
2	1			古典演習Ⅰ	3	3	3	希望しない	1	3	2	0	3	3	2	3	3	3	4
2	1			古典演習Ⅰ	3	4	4	希望しない	2	3	3	0	3	3	3	2	3	2	3
2	1			古典演習Ⅰ	3	3	3	希望しない	2	2	2	0	3	3	3	2	3	3	3
2	1			古典演習Ⅰ	4	4	4	希望しない	4	4	4	0	4	4	4	4	4	4	4
2	1			古典演習Ⅰ	4	4	2	希望しない	4	4	2	地学基礎	4	3	4	4	3	3	3

研究開発の取組状況 (2)各教科の取組

家庭「家庭基礎」(「こころのアンケート」を活用した個別指導)
 授業実施学年: 1年
 単元: 家族・家庭、食生活、保育、ホームプロジェクト(1~2学期)

NO.		7月					9月					10月					11月								
		学校生活	学習	自己効力感	家庭生活	1学期評価	手当	学校生活	学習	自己効力感	家庭生活	夏季課題	手当	学校生活	学習	自己効力感	家庭生活	中間評価	手当	学校生活	学習	自己効力感	家庭生活	2学期評価	手当
1	A	3	2.3	2.3	2.5	3		3.3	2.3	1.3	1.8	6	○	2.3	1.7	1.7	2.3	20	○	3	2	2	2.3	3	
2	B	3.7	2	1.3	2.5	3	○	3	1.7	1.7	2.8	6	○	3.3	1.7	1.3	2.8	15	○	3.3	2	2	3	3	
3	C	1.7	2	1.7	2	3	○	3	2	2	2.3	5	◎	3	2	1.3	2.5	6	◎	3	2.3	2.3	3	3	◎
4	D	3	2	2.3	3.3	5	○	3	1.7	1.3	2.5	12	○	3.3	1.7	1	3.3	19	○	2.3	1.7	2.3	3.3	5	○
5	E	2.3	2.3	1.3	3	4	○	2.3	2.7	1.7	3	7	○	2.3	1.7	2	3	8	○	2.3	2.3	2	3	3	◎
6	F	2.7	1.7	1.7	2.8	3	○	2.7	1.7	1.7	2.8	0		2.7	1.7	1.7	2.8	5	◎	2.7	2.3	2	2.8	3	○
7	G	1.7	1	1.7	3.3	5	○	1	1	2	2.8	7	○	1	1	2.3	3	15	○	1	1.3	2.3	3	4	◎
8	H	2.3	1.7	1.7	1.5	3	○	3	1.3	1.7	2.8	4	○	3	2	2	2	13	○	2.3	1.3	1.7	2.3	3	○
9	I					5		2	1.7	1.7	3.3	7	○	3	2.3	1.3	3	17	○	3	2.7	2	1.8	4	◎
10	J	3.7	3.3	3.3	3.5	5		4	3	3.3	3.5	12	☆	3.7	3.7	3.7	3.3	18		3.7	3	3.3	3	5	
11	K	3.3	3.7	3.3	3.5	4		3.3	3.3	3.8	3.8	16	☆	4	3.3	4	3.8	17		4	4	3	4	5	
12	L	3.3	3.3	3.3	3.5	5		3.3	3	3.3	3.3	16	☆	3.7	3.3	4	4	19		4	3	3.3	3.5	5	
学年平均						4.2																		4.2	

○机間巡視中の注意、ノートへ付箋・コメント、個別に声かけ・励まし
 ◎ノート、プリント整理の手伝い・面談
 ☆コンクール代表に選出し、個別指導。作品をブラッシュアップした。

コンクール
 応募の3名中
 2名が「佳作」に入
 選しました



夏季課題の展示



作品の相互評価



保育実習

内容: 第1、2回の「こころのアンケート」で
 1点台の回答があった生徒を抽出し、個別指導を
 行う。

【授業中の机間巡視、声かけ】

- ・ノートがとれているか
- ・グループでの話し合いに参加しているか
- ・実習に主体的に取り組んでいるか

【提出物】

- ・付箋をつけて未記入部分を示す
- ・励ましのコメントを記入する
- ・プリントの整理を手伝い提出を促す
- ・提出物の状況を本人と確認する

結果: A~Hの何かしら心に鬱屈を抱えている生徒
 に対し、一斉授業の中で特に注意を払って対応で
 きたり、授業以外で個別の声かけができたという
 点で大変メリットがあった。また、_____は夏
 季課題が優秀であったので、家庭科のコンクール
 に応募した生徒である。課題解決型の学習に意欲
 的に取り組んでいるこれらの生徒たちは、「こころの
 アンケート」でも高得点が出ていることがわかった。

